いずみさの昔と今 第310回

「十二谷池と祭文～風水と水・土のまじない～」

今回は10月9日㈯より開催の歴史館いずみさの秋季特別展「いのりよ、とどけ～泉佐野の信仰資料」に関連して、十二谷池修築の際に作られた古文書から池に込められた人々の願いを紹介します。

古くから日根野地域を潤してきた十二谷池は、正和5（1316）年に作成された「日根荘日根野村荒野開発絵図」に「住持谷池」と記されており、少なくとも鎌倉時代後期には十二谷池が築かれ、周囲の田畑を潤していたことがわかります。永享3（1431）年には、日根野村・井原村・檀波羅蜜寺村の間で十二谷池の水に関する契約を結んでいることから、同年までに十二谷下池が築かれたようです。さらに嘉吉元（1441）年には、十二谷池で修築が行われており、地鎮祭が行われています。地鎮祭では、神仏へ捧げる祭文が作成されており、そのなかで応永26（1419）年から修築されたこと、「井溝」（井川のことか）を再興したこと、様々な人が協力したことなどが記録されています。

この祭文は、祝師檀波羅蜜寺僧宣照房により作られ、地鎮祭で読み上げられました。祭文は、神仏へ捧げられるもので、元々は仏教・密教、中国伝来の祭祀などで読まれました。中世においては神道の祝詞に値します。記される神仏の名前は、作成者が求めるご利益で変化し、雨乞いであれば竜王や竜女、水神、高竈などの神仏の名を記しました。つまり、祭文に記された神仏の名前から、十二谷池を修築した当時の人々が求めたご利益を知ることができます。

実際に神仏の名前を拾い上げると「内海外海竜王竜女」「土公水神」「善女竜王」「南斗北斗」「山神護法八百万代神達」「五帝龍王」など密教、修験道、陰陽道などの神仏が確認できます。

また、祭文を読み上げた後には中臣祓が行われており、神仏習合時代の祭祀の特色がよくわかります。更に祭文には「たとえ金神七殺禍害絶命土公五王遊行方たると雖も四神相応を鑒ず地に御座す」とあります。金神は暦と方位の神様で、甲己の年であれば午未申酉に居るというように年の十干で居る方角が変わります。この神は居る方角が一年大凶になるというものですので、方違をしたりしてその方角を避けました。四神相応は、玄武・青龍・朱雀・白虎が東西南北を守護しているという意味ですので、十二谷池は、東西南北の運勢を調べたうえで築かれた、あるいは修築したということになります。風水は陰陽師が得意としたものであり、一般には秘匿されていました。祭文の作成は檀波羅蜜寺の祝師（呪い師兼芸能者のこと）が担当していることを考えると、陰陽道や修験道の知識に詳しい者が泉佐野の市場付近にもいたのかもしれません。ともかく、十二谷池は、方角の運勢を調べ、神道・仏教・修験道・陰陽道など様々な信仰で祀られた神仏へ池の安泰を願いながら作られたことは確かです。

▲十二谷池から日根野高校を望む

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの
☎469-7140 Fax469-7141
休館日　月曜日、毎月最終木曜日（いずれも祝日の場合は開館し、その翌日が休館）
開館時間
午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）
入館料　無料

日本遺産・中世日根荘を巡る㉗

～旅引付編（11）「土丸・雨山城跡（前編）」～

JAPAN HERITAGE
日本遺産

「日本遺産」に認定された「旅引付と二枚の絵図が伝えるまち ―中世日根荘の風景―」のストーリーを構成する泉佐野市の文化財等を紹介します。

問合先　文化財保護課

◀政基公旅引付
※旅引付の写真は、歴史館いずみさの所蔵の複製を使用（原本は宮内庁書陵部所蔵）

土丸・雨山城跡

土丸・雨山城は、城ノ山とも呼ばれる土丸山（写真右）と、熊取町の雨山（写真左）のふたこぶの山頂付近に築かれた中世城郭です。紀州と和泉を結ぶ往還道に位置し、戦略上重要な場所として長期にわたり一つの山城として機能したことがわかってきたので、現在は土丸城と雨山城の２つをまとめて、「土丸・雨山城跡」と呼んでいます。

鎌倉時代から戦国時代まで続いた九条家の荘園「日根荘」については、『九条家文書』や絵図、『政基公旅引付』などの資料の記録と、寺社やため池、水路など現在も残るものの多くが一致することから、16ヵ所の地点が「日根荘遺跡」として国史跡に指定されています。「土丸・雨山城跡」も、日根荘の人びとの営みと密接な関わりがある中世山城として、平成25（2013）年に国史跡に追加指定されました。

山頂の尾根筋、谷筋など大きく４つのエリアで、南北朝期から戦国期（1300～1600年頃）にかけての城郭に関わる遺構が残されています。一番上の曲輪には龍王社が祀られ、東側斜面には武者隠しが見られます。雨山側には千畳敷や龍神の井戸が残されている他、山頂に雨山龍王社が建てられ、大森神社（熊取町）が管理をされています。両城ともに古くから雨乞い信仰の山としても、地域に愛され続けてきました。（つづく）

【訂正】広報9月号18ページに掲載の「日本遺産・中世日根荘を巡る㉖」の中で誤りがありましたので下記のとおり訂正します。
（誤）「如意論観音像」
（正）「如意輪観音像」